（世界遺産　レジデンツ）

ドイツヴュルツブルク音楽大学　留学報告書
～音の旅～

岩見沢校　芸術スポーツ文化学科
音楽文化専攻　４年　原田万里花

ドイツでの生活

◯ビザ取得

ドイツのビザ申請は、ドイツに到着してアパートに住んでから始まります。ビザは到着から３ヶ月以内に取得することが原則です。
留学生だった私は学生ビザを申請しました。ビザの取得の流れは以下の通りです。

①日本のドイツ領事館で、滞在費用負担証明書を発行してもらう。（現在この制度は廃止）

②アパートにて大家さんのサイン入りの契約書をもらう

③契約書を持って、Rathaus（市役所）で住民登録

④Rathaus内にある外国人局でビザ申請のアポを取る（遅い時は１ヶ月後になることも）

⑤申請書類、写真、申請費用、住民票、滞在費用負担証明書、在学証明書を持って申請

⑥約２～３週間後、完成したビザを受け取りに行く

このように、申請までは様々な段階があり、様々な書類が必要になるため早めに動き出さないといけませんでした。しかし在学証明書が手に入るのは入学手続きの後になるので、あまり早くドイツに着いてしまうと申請がギリギリになってしまう可能性があると思いました。

◯ヴュルツブルクの自然と文化

ヴュルツブルクは多くの自然に囲まれています。街の中心にはマイン川が流れ、かけられた橋の上で食事を楽しむこともできます。世界遺産に登録されているレジデンツ（司教館）は年中沢山の観光客で賑わい、街の重要な文化財として愛されています。無料開放の庭園には綺麗な花々が咲いていて、観光客だけでなく市民もベンチに腰掛けて休む憩いの場となっています。
マイン川の橋の上からはワイン畑と街を見守るマリエンベルク要塞を見ることができます。この要塞はもともと司教領主が住んでいましたが、のちにレジデンツに移動しました。マリエンベルク要塞、レジデンツともにヴュルツブルクのランドマークとなっています。
フランケン地方にあるヴュルツブルクは、ワインが特産品です。フランケンワインは特徴的な形をしていて、それぞれの場所でそれぞれのワインが作られています。

公園も沢山あり自然や歴史的建造物を身近に感じながら生活することができました。街並みや建物を見ると、ヴュルツブルクが歩んできた歴史が今もなお残っており、沢山のことを学ぶことができました。

音楽の楽しみ

○ヴュルツブルク音楽大学

大学はBibra、Hofstall、Residenzplatzの３つのキャンパスに分かれています。
３つの建物へはそれぞれ徒歩で移動でき、主科や担当の教授によって主に使う建物が違います。
全てのキャンパスに１・２個コンサートホールがあり、用途によって使い分けていました。

（左　Prof.Inge Rosar　右　原田万里花)

私は、Inge Rosar先生のもとでピアノを学んでいました。先生はバッハの専門家で楽譜を読む、捉えるということについて重要視していました。バッハだけでなく、ベートーヴェンやブラームスなどのドイツ作品を中心に学び、音符や速度記号が意味の捉え方に沢山の発見がありました。
また、ピアノを弾く・音を奏でると言う事は、楽しむ事なのだと改めて感じました。そのためには、身体を自由に使う事が必要だと学びました。
先生は、まだドイツ語が喋れない私にも優しく丁寧に接してくれました。移民問題があるなか、人と関わることの大切さも学ぶことができました。

◯演奏の経験

先生の門下ではゼメスター終わりに１度発表会がありました。コンサートはもちろん公開で行われ、比較的に長い持ち時間があり多くの経験を得られました。驚いたのは、お客さんがとても温かく聴いてくださった事でした。演奏後には、”ありがとう”や”頑張って”と声をかけてくださって、とても励みになっていました。

大学のプロジェクトとして、Musik Publikというものがありました。週２回、大学内のホールにてお昼の１２：００〜１３：００まで学生によるコンサートです。出演者は、事前に担当教授に申し込みをして、Musik Internというオーディションのようなものを行います。そこでコンサートに出れるかどうかを教授が判断すると言うものです。私も何度か出演させてもらいましたが、人前で弾くことの楽しさ、難しさなど多くのことを学びました。

学校内では室内楽のコンクールが行われ、私も２組のグループで参加しました。
室内楽はソロとは違った技術・感性が求められるため、授業でも沢山のことを学んでいました。
組んでいたグループの１つは韓国人のチェリストが含まれていたので、合わせもドイツ語で行なっていました。同じくドイツ語を学んでいる人と会話することでお互い刺激しあって、勉強することができました。

夏には、イタリアでのコンクールにも参加しました。初めての国際コンクール、そして英語での手続きは困難続きでしたがレベルの高い演奏を沢山聴くことができ、自分もその中で演奏できたことで成長することができました。またコンクールで出会った日本人の方々とも交流を深めることができ、留学生同士の情報交換もしていました。

◯この留学で学んだこと

留学をするまでの世界がどれだけ小さく、自分が何も知らなかったかを思い知らされました。
世界には沢山の人がいて、沢山の考えがあって、沢山の音楽があると言うことを改めて学びました。
音楽は、日本語では”音を楽しむ”と書きます。ドイツでは、本当にその字のまま音自体を楽しんでいるように見えました。私自身は、練習が苦しいとか辛いと感じることが多かったのですが、先生はある意味子供のように”どうしたらどんな音が出るのか”、”こんな風に弾いたらどうなるのか”など色々なことを実験のように試していました。指導の時もいつも楽しそうに教えてくれて、音楽と生きていくことの楽しさを先生が身をもって証明していたように思います。
私も先生のように、音楽と共に生きて生きたいと思うようになりました。そして日本だけでなく、沢山の人に自分の音楽を聴いてもらいたいです。また、ドイツで学んだ技術・考えなどを多くの日本人に伝えていきたいと考えています。

◯これから留学する人に向けて

新しい世界を知ることは、こわいことだと思います。言葉も通じず、文化もまるで違う場所で生きていくには、沢山の勇気と努力が必要になると思います。しかしそれでもなお、音楽人として、また人として多くを学び成長できるチャンスにもなります。留学をすれば必ず何か変わると私は思います。
不安もあるとは思いますが、きっとなんとかなります。いろんな人に力を借りながら、頑張って乗り越えていけることを願っています。